

番号	29 - 39	申請者	看護師 古澤 桂子
<p>【審査申請課題】 重症心身障害者の人工呼吸器装着に関する家族への支援 ～人工呼吸器装着前後の家族との関わりについての考察～</p>			
<p>【審査課題の概要】</p> <p>病棟には人工呼吸器装着患者が12名いる。12名中7名は日中のウイニングが可能な状態である。別に、気管カニューレ挿入のみの患者が5名おり、その中で2名の男性患者が呼吸機能低下などから近いうちに人工呼吸器装着が予測されていた。20歳代の男性患者（以下A氏）は、検査結果から夜間の人工呼吸器装着予定となった。本研究は、A氏とその家族、家族に関わった看護師が対象である。</p> <p>重症児（者）ではいくつかの要因が重なって呼吸の障害が生じる。閉塞性換気障害・拘束性換気障害・分泌物などによる呼吸の阻害が基本的要因となる。呼吸リハビリテーションなどで進行を遅らせることは可能だが完治は望めないと思われる。患者には人工呼吸器装着に関しての意思決定はできないため、A氏は、母親に病状説明・治療方針の説明と意思決定を行っていく事となった。人工呼吸器装着後、数日間は日中の人工呼吸器離脱が困難となり、毎日のように母親の面会があり不安の言葉が聞かれた。母親の人工呼吸器装着に対する認識と看護師側の認識にずれがあったことが考えられた。</p> <p>重症児（者）入院の特徴として個人差はあるが長期間家族と離れて生活していることがあげられる。そのため家族は面会時の様子しか感じ取れない場合が多いと思われる。A氏は、母親が精神的に弱い状態であることなども考慮し、対応を検討していく必要があった。</p> <p>今回、家族が代理意思決定を行う前後の言動と看護師の関りを振り返り、看護支援の在り方を検討したいと考え、本研究に着手した。</p> <p>病棟には人工呼吸器装着患者が12名いる。12名中7名は日中のウイニングが可能な状態である。別に、気管カニューレ挿入のみの患者が5名おり、その中で2名の男性患者が呼吸機能低下などから近いうちに人工呼吸器装着が予測されていた。20歳代の男性患者（以下A氏）は、検査結果から夜間の人工呼吸器装着予定となった。本研究は、A氏とその家族、家族に関わった看護師が対象である。</p> <p>重症児（者）ではいくつかの要因が重なって呼吸の障害が生じる。閉塞性換気障害・拘束性換気障害・分泌物などによる呼吸の阻害が基本的要因となる。呼吸リハビリテーションなどで進行を遅らせることは可能だが完治は望めないと思われる。患者には人工呼吸器装着に関しての意思決定はできないため、A氏は、母親に病状説明・治療方針の説明と意思決定を行っていく事となった。人工呼吸器装着後、数日間は日中の人工呼吸器離脱が困難となり、毎日のように母親の面会があり不安の言葉が聞かれた。母親の人工呼吸器装着に対する認識と看護師側の認識にずれがあったことが考えられた。</p> <p>重症児（者）入院の特徴として個人差はあるが長期間家族と離れて生活していることがあげられる。そのため家族は面会時の様子しか感じ取れない場合が多いと思われる。A氏は、母親が精神的に弱い状態であることなども考慮し、対応を検討していく必要があった。</p> <p>今回、家族が代理意思決定を行う前後の言動と看護師の関りを振り返り、看護支援の在り方を検討したいと考え、本研究に着手した。</p>			
審査結果	承認（平成30年2月19日）		